



学校だより

6月号



みのたなくん

～豊かで調和のとれた子の育成～

くましく生きる人 かよく生きる人

<http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/tana/>

学校再開で思うこと

校長 酒井 浩明

校庭のいちじくの若葉も大きくなり、あじさいの花だよりが聞かれる6月となりました。

保護者の皆様には、通常の夏休み等と異なる環境の中で、お子さんの学習を促しながら臨時休業期間を過ごされたこと、お礼申し上げます。

さて、本校では、私たちにも初めての経験ですが、6月12日までの2週間分散型2部授業（午前登校・午後登校）を実施しています。

このため、子どもたちがお昼の時間帯に下校・登校をしています。

各家庭には、健康観察の継続実施やマスクを着用、登下校時の付き添いや見守りなどの協力をお願いしていますが、**通学路途中での安全指導や交通事故防止には地域の方のご協力もいただければ幸いです。**

私たち教職員は、より一層自己の健康や衛生管理に努めながら、子どもたちの学習と生活が充実するように力を注ぎたいと思っています。

教職員には、子どもに対してマスク着用としっかり手を洗うこと、3密を避けることを指導しますが、子どもの心の萎縮につながらないようにすることや、いじめの予兆に気付き指導することを心掛けるよう話しています。

そして、ゆっくりと子どもたちの様子を見ながら、生活習慣の確認や学級づくりを進め、前年度の補習学習や4月分の学習に楽しく入っていくようにできたらと考えています。

学校再開に当たり、人との交わりを好む子どもたちの特性や、学校でのインフルエンザ発生時の状況を思い出すと、小学校児童の感染など、気になる報道もありました。

学校再開後の差別やいじめ防止に繋がる見方・考え方を含む報道もありましたので、2つ記事の骨子を紹介させていただきます。

一つは、大阪大学などが3月に行った調査で、「**感染は本人のせい**」と捉える傾向が、欧米に比べ日本は突出して高く、新型コロナ感染者を責めたり、謝罪を求めたりする不寛容さとの関連が考えられる。
神戸新聞 NEXT 2020年5月17日

2つめは、感染者に対する差別や嫌がらせが続け

ば、差別を恐れて相談や受診をためらう人が出かねず、結果的に感染拡大を招く懸念がある。また、密集を避け、手洗いを



<分散登校時の交通安全協会の方の協力>

しっかり行っても、感染を避けられない場合がある。仮に注意を欠いた行動があったとしても、人格まで攻撃される理由にはならない。

コロナ対策は他人と距離を空けて行動することを求める。それが心の距離まで隔てることは避けたい。不寛容な振る舞いを控え、人同士のつながりを維持できるか、社会の強さが試されている。

毎日新聞 2020年5月20日社説

誰もがこの感染症を「他人にうつしたくない」という気持ちをもっているのは一緒です。

医療従事者・福祉介護関係者や私たちの生活維持に欠かせず、在宅では成り立たない人と関わる機会の多い仕事をされている方への感謝の気持ちとともに、この記事の内容も心に留めて、田奈の地域の人の心の温かさを子どもたちにも伝えていけたらと思っています。

担任にご連絡ください

学校は再開できましたが、当面の間、例年通りの家庭訪問や懇談会を実施できません。

現在、7月下旬頃に個人面談を予定しています。

つきましては、授業再開に当たり、**担任に早めに知らせたい内容**（体調や生活上の留意点等）があり、**今までの電話連絡等の折に伝えられていない場合は、6月第1週中に、電話でお知らせください。**

その後、相談が必要になった場合には、登校下校時は、児童の指導で多忙となりますので、**放課後等にお電話で相談いただいたり、来校時間を事前調整したりしてください。**ご協力をお願いいたします。